

## 第45回 教育課程小委員会議事録

### 1 日時・場所

2013年9月24日（月・祝） 13:00-17:25 都立両国高校

### 2 参加者

矢島ミ、畠山、瀧上、宮嶋、山下、萬年、南島、能見、川村、上村、飯田

### 3 前回議事録の確認

議事録案の通りに承認された。

### 4 中教審・理数系学会・他研究団体等の情勢報告

#### ○中教審

- ・第11、12回教育再生実行会議の資料から、現行学習指導要領における理科教育の抜本改革の内容、平成27年度実施予定の全国学力調査の概要について確認を行った。

#### ○理数系学会・他研究団体等

- ・京大防災研地学教育研究集会（8/21, 22）の概要について、40-50人の参加があり、新学習指導要領における地学基礎の開講状況について注目が集まったことが報告された。
- ・天文教育研究会シンポ（8/19）において、地学基礎の天文分野の内容について、地学基礎を発行する全ての教科書の執筆者が参加して、シンポジウムが行われたことが報告された。
- ・地学教育学会（8/17、18）の年會が行われたが、次期学習指導要領改訂に関する議論は行われなかったことが報告された。また、「地学が学べる高校」について、各都道府県ごとに協力者を得ながら調査が行われていることが報告された。
- ・地学団体研究会の年會（8/24, 25）が行われたが、次期学習指導要領改訂に関する議論は行われなかったことが報告された。また、小中学校の地学教育について、高校・大学教員が支援を行う必要性が話題に上った。
- ・サイエンスアゴラ（11/9）において、「次期指導要領改訂での必修理科科目のあり方」について、宮嶋委員が「教養理科」以降のJpGUの取組について発表することが報告された。
- ・地質学会関東支部（11/24）、地質研究サミットの教育セッションにて、宮嶋委員が現行指導要領改訂の過程におけるJpGUの取組について発表することが報告された。

#### ○教育問題検討委員会関連の報告事項

- ・来年度連合大会のセッション提案について、教育とアウトリーチは区分を細分化せず、一括でセッションを実施する方向であることが報告された。

#### ○その他

- ・第6回国際地学オリンピック（9/11-19）について、23ヶ国90名の参加があり、日本選手団は、金1個、銀3個のメダルを獲得したことが報告された。また、次年度のアメリカ大会の日程について報告があった。

### 4 協議

#### （1）高校科目設置検討WGの担当について

次期高校学習指導要領改訂への備えとして、次の2つの科目設定を想定して、そこにつながる小中高の内容検討を進めることとした。また、希望に基づき各委員の担当を決定した（○はチーフ）。なお、欠席した委員には後日、希望を伺い担当を決定することとした。

A 現行の基礎科目を基本とする科目設定 担当：能見、瀧上、南島、○宮嶋

B 「教養理科」をベースにした必修理科科目 担当：○山下、川村、阿部、飯田、畠山、上村

なお、内容検討に当たっては、地学が社会から求められている内容として防災の観点を盛り込むことが必要であることを確認した。

#### （2）地学基礎の内容検討について（地学における science for all）

高校科目設置検討WGのAグループが担当することを確認した。

#### （3）各種働きかけについて

##### ①地学教育の現状（特に地学基礎の履修率に関して）と今後の課題について

提出された草案を検討し、次回理事会（10月上旬）に提出できるよう、二次案を宮嶋委員が起草する

ことを確認した。

②政治家への働きかけ

ある委員と交流のある企業経営者が環境省政務官と面識があり、その企業経営者に地学教育の実情や問題点を政治家に伝えてもらうよう話が進んでいることが報告され、了承された。

③各都道府県教委への地学開講の要望

第四紀学会の要望書を参考として、毎年提出する形式として内容を検討し、次回理事会（10月上旬）に提出できるよう、二次案を川村委員が起草することを確認した。なお、要望書を各都道府県教委に提出する際の協力依頼を、教育問題検討委員に要請することを確認した。

（3）次年度連合大会のセッション提案について

望ましい地学の基礎科目の内容を議論するセッションを、教育問題検討委員会を提案母体として一般公開セッションとして提案することを確認した。

5 次回小委員会について

11/17 か 12/1 を候補日として、メールにて各委員の都合をたずねて開催日を決定することを確認した。